



平成 17 年 2 月 17 日

各 位

会 社 名 アルゼ株式会社
代表者名 代表取締役社長 阿南一成
(J A S D A Q ・ コード 6 4 2 5)
問合せ先 取 締 役 堀 義人
電 話 03 - 5530 - 3055(代表)

当社子会社（アドアーズ株式会社）の通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社であるアドアーズ株式会社は、平成 16 年 5 月 25 日付同社「平成 16 年 3 月期決算短信（非連結）」にて発表いたしました同社の平成 17 年 3 月期（平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日）の通期業績予想につきまして、別添資料のとおり、修正いたしましたので、お知らせいたします。なお、当社の連結業績予想につきましては、現在策定中でありますので、確定次第発表させていただきます。

以 上



平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（非連結） 通期業績予想の修正、特別損失の発生及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成 17 年 2 月 17 日

会 社 名 アドアーズ株式会社

(JASDAQ・コード番号：4 7 1 2)

(URL <http://www.adores.co.jp/>)

代 表 者 役 職 名 代表取締役社長

氏 名 鈴木 英一

問い合わせ先 責任者役職名 取締役管理部長

氏 名 田原 正彦

(Tel : (03) 5530 - 6500)

1 . 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有 (一部簡便な方法を採用)
 会計処理の方法の最近会計年度における方法との相違の有無 : 無
 公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

2 . 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(1) 経営成績の進捗状況

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四 半 期 (当 期) 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 3 四半期	14,731	12.9	592	74.8	582	74.7	40	96.5
16 年 3 月期第 3 四半期	16,912	9.2	2,353	3.8	2,301	0.6	-	-
(参考) 16 年 3 月期	23,009		3,020		2,939		1,335	

	1 株当たり四半期 (当期) 純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期) 純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 3 四半期	0	65	-	-
16 年 3 月期第 3 四半期	-	-	-	-
(参考) 16 年 3 月期	21	02	-	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しています。

なお、1 株当たり四半期 (当期) 純利益については、17 年 3 月期より四半期開示を行っているため、前年同四半期実績は記載しておりません。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期までのゲーム市場は、夏のアテネオリンピック開催、猛暑などの異常気象、冬には新しい家庭用ゲーム機の発売など、アミューズメント施設運営には厳しい経営環境となりました。

パチンコ・パチスロ市場は、昨年 7 月の風俗営業法規則改正の施行により、パチスロ機の開発・販売動向に大きな影響がありました。また、パチンコ・パチスロホール設計・施工も環境は厳しく推移しました。セグメントごとの概況は以下の通りです。

【アミューズメント施設運営事業】

主力のアミューズメント施設運営事業におきましては、新規に 4 店舗を開店し、増床を 2 店舗、非効率店 2 店舗の閉店を行いました。新規出店店舗では、新業態への取り組みとして本格的なダーツバ

－『アローズ』のオープン、近畿圏への足がかりとなる『アドアーズ天王寺店』の出店、また既存店への施策としてアドアーズ渋谷店4階を改装し、メンバーズカード会員限定フロア（ハイローラー向けフロア）としてオープンいたしました。しかし、大型店舗間での市場競争の激化による入客数の減少など、既存店を中心に軟調に推移し、売上高は12,271百万円（前年同四半期比96.9%）となりました。

【パチスロ機・周辺機器レンタル事業】

パチスロ機・周辺機器レンタル事業におきましては、昨年7月の風俗営業法規則改正に即したパチスロ機のレンタルプランの見直しを進めておりますが、その影響から売上高は計画を下回りました。以上の結果、売上高は809百万円（前年同四半期比52.6%）となりました。

【各種施設開発・設計・施工事業】

各種施設開発・設計・施工事業におきましては、大型ホールチェーンの躍進と中小ホールの苦戦の二極化は依然として続いており、施設開発や設計・施工の受注は厳しく推移した為、売上高は計画を下回りました。以上の結果、売上高は1,439百万円（前年同四半期比63.0%）となりました。

【不動産事業】

不動産事業におきましては、概ね計画通りに推移し、売上高は210百万円（前年同四半期比49.3%）となりました。

以上の結果、当第3四半期までの累計売上高は14,731百万円（前年同四半期比87.1%）、新規出店に伴う費用及び貸倒引当金の増加等により営業利益は592百万円（前年同四半期比25.2%）、経常利益は582百万円（前年同四半期比25.3%）、第3四半期までに計上した特別損失501百万円により、当期純利益は40百万円となりました。

(2) 財政状態の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	29,019	14,529	50.0	229 79
16年3月期第3四半期	-	-	-	- -
(参考)16年3月期	31,620	14,832	46.9	234 33

(注) 四半期での財政状態については17年3月期第1四半期より開示を行っており、16年3月期第3四半期実績は開示しておりません。

[財政状態の変動状況に関する定性的な情報]

前期末と比較して総資産では2,601百万円減少いたしました。増減の主なものは、資産では売上債権やレンタル資産の減少、負債では仕入債務の減少であります。株主資本は14,529百万円となりました。

3. 平成17年3月期 単独業績予想の修正及び特別損失の発生

(1) 通期（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり期末配当金
前回予想（A）	25,007	3,268	1,470	5円00銭
今回修正（B）	19,000	500	700	0円00銭
増減額（B - A）	6,007	2,768	2,170	5円00銭
増減率	24.0%	84.7%	-	-

(2) 修正理由

主力事業のアミューズメント施設運営事業では、新規出店10店舗を予定しておりましたが、より収益性を重視した結果、期末までに5店舗の出店（中間期までに4店を出店済。第4四半期に1店を出店予定）となる見込みとなりました。既存店では旗艦店であるアドアーズ渋谷店で当社初めての運営形態であるメンバーズカード会員限定フロア（ハイローラー向けフロア）をオープンし、好評を頂いておりますが、その他大型店での競争が激しく、在客数・売上高ともに計画を下回る見通しとなりました。

パチスロ機・周辺機器レンタル事業では、昨年7月の風俗営業法規則改正による影響を考慮したレンタル契約の見直しを進めておりますが、お客様への新レンタルプランの提供の時期が来期にずれ込む見込みとなり、これらの影響により計画を下回る見通しとなりました。

各種施設開発・設計・施工事業では、受注競争の激化する中、与信審査・管理の強化を進めており、営業体制の再構築を優先した結果、計画を下回る見通しとなりました。

このような結果、全社の売上高は19,000百万円となる見込みとなりました。

経常利益につきましては、新規出店に伴う費用等の増加に対して、経費の削減・効率化に努めましたが、500百万円となる見込みとなりました。当期純利益につきましては、下記特別損失の発生により700百万円の損失となる見込みとなりました。

以上の主な要因により、通期業績予想を修正させていただきます。

(3) 特別損失の発生について

当社は、中間期においてパチスロ機・周辺機器レンタル事業の保有しておりますレンタル資産の再利用性を検討の上、評価減を行いました。しかし、現在準備中の新レンタルプランを早期に市場に浸透させるためには、現在保有中のパチスロ機の再利用を継続するよりも新基準のパチスロ機をお客様にいち早く提供し、市場の拡大を図ることが、当社にとってもお客様にとっても有効であると判断し、レンタル資産等の更なる評価減を決定いたしました。

このような結果、レンタル資産評価損等で1,071百万円、回収に懸念のある債権に対する引当として300百万円及びたな卸資産評価損260百万円の計上等により、特別損失として1,888百万円を計上する見込みとなりました。

(4) 配当予想の修正について

当社は、株主の皆さまへの利益還元の充実と、事業の成長及び経営基盤の強化のために内部留保の充実を総合的に勘案し、業績に応じて株主の皆さまへ安定的に配当することを基本方針としておりますが、今般、平成17年3月期の通期業績予想の修正に伴い当初1株当たりの期末配当金を5円00銭（年間配当金5円00銭）と発表しておりましたが、無配のやむなきに至りました。

(5)今後の主な取り組み

【成長戦略プロジェクトの発足に伴う戦略の立案】

2004年12月21日、社長以下各事業の責任者を刷新し、新たな人員体制でスタートを切りました。まず各事業の選抜人員による『成長戦略プロジェクト』を発足し、事業構造、ビジネスプロセスの再点検から経営計画、目標管理、組織の活性化など、様々な角度から見直しを図ってまいります。

【既存店の活性化・収益性の高い出店戦略】

主力事業のアミューズメント施設運営事業は売上の8割以上を占める主力事業であり、この事業の活性化を図ることにより、当社全体の成長・発展を図ってまいります。既存店の活性化につきましては、当社の得意分野であるメダルゲームにおいて、渋谷店でオープンしたメンバーズカード会員限定フロア（ハイローラーフロア）を他の店舗にも拡大し、特色を打ち出した店舗展開により競合各社との差別化を推し進め、当事業の活性化を図ってまいります。また新規出店戦略につきましても、出店基準の明確化と厳格化を図り、より収益性が高い店舗の出店を積極的に行ってまいります。

【パチスロ機・周辺機器レンタル事業、各種施設開発・設計・施工事業の再構築】

パチスロ機・周辺機器レンタル事業では、パチスロ機レンタルにおきましては風俗営業法改正に則した新レンタルプランを親会社でありますアルゼ株式会社の協力のもと進めてまいります。新レンタルプランは、パチスロ機のお客様への提供方法を革新的に変える契約形態で、今回の資産見直しによる損失は来期に新レンタルプランを開始することにより早期に回収してまいります。

各種施設開発・設計・施工事業では、顧客の意向をより確実に捉え喜ばれる施工を行う体制の再整備を行い、受注の拡大を推進してまいります。

いずれの事業も大きく計画を下回る見通しとなりましたが、今後抜本的な改革を強力に推し進め、アドアーズの成長の核となるべく、各事業の再構築を行なってまいります。

(注)上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なることがあります。

〔添付資料〕

1. 要約貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成17年3月期第3四半期末)		(参考) 平成16年3月期	
	金 額	構成比	金 額	構成比
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	2,827		3,311	
受取手形	917		848	
売掛金	197		596	
完成工事未収入金	713		1,243	
たな卸資産	1,474		1,732	
短期貸付金	2,074		2,154	
繰延税金資産	156		140	
その他	820		752	
貸倒引当金	165		139	
流動資産合計	9,017	31.1	10,640	33.7
固定資産				
有形固定資産				
アミューズメント施設機器	3,190		3,006	
レンタル資産	1,302		2,301	
建物	2,813		2,685	
土地	3,022		3,022	
その他	310		324	
有形固定資産合計	10,639	36.6	11,340	35.8
無形固定資産	401	1.4	408	1.3
投資その他の資産				
長期受取手形	883		968	
敷金保証金	7,583		7,680	
繰延税金資産	92		90	
その他	884		958	
貸倒引当金	481		465	
投資その他の資産合計	8,961	30.9	9,231	29.2
固定資産合計	20,002	68.9	20,980	66.3
資産合計	29,019	100.0	31,620	100.0

科 目	当四半期 (平成17年3月期第3四半期末)		(参考) 平成16年3月期	
	金 額	構成比	金 額	構成比
(負債の部)				
流動負債				
支払手形	709		1,223	
買掛金	421		725	
工事未払金	455		1,046	
短期借入金	7,000		4,300	
一年内返済予定の長期借入金	1,344		3,047	
未払法人税等	0		874	
前受レンタル料	65		953	
賞与引当金	39		49	
その他	695		994	
流動負債合計	10,731	37.0	13,214	41.8
固定負債				
長期借入金	1,610		2,465	
預り保証金	278		278	
レンタル預り保証金	47		192	
長期前受レンタル料	120		249	
社債	1,200			
その他	502		387	
固定負債合計	3,758	13.0	3,573	11.3
負債合計	14,490	50.0	16,788	53.1
(資本の部)				
資本合計	14,529	50.0	14,832	46.9
負債、資本合計	29,019	100.0	31,620	100.0

- (注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 前年同四半期は要約貸借対照表を作成していないため、記載しておりません。

2. 要約損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成17年3月期第3四半期)		(参考) 平成16年3月期	
	金 額	構成比	金 額	構成比
売上高	14,731	100.0	23,009	100.0
売上原価	12,103	82.2	17,216	74.8
売上総利益	2,628	17.8	5,792	25.2
販売費及び 一般管理費	2,035	13.8	2,771	12.1
営業利益	592	4.0	3,020	13.1
営業外収益	351	2.4	467	2.1
営業外費用	361	2.5	548	2.4
経常利益	582	3.9	2,939	12.8
特別利益	1	0.0	172	0.8
特別損失	501	3.4	656	2.9
税引等調整前四半期 (当期)純利益	82	0.5	2,455	10.7
税金費用	41	0.3	1,120	4.9
四半期(当期)純利益	40	0.2	1,335	5.8

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 前年同四半期は要約損益計算書を作成していないため、記載しておりません。